

県外派遣審判員報告書

作成日 平成31年1月6日

大会名	wintercup2019	会場	武蔵野の森総合スポーツプラザ
期間	2018年12月23日	報告者	山中 萌衣
スケジュール			
期日	内容		場所
12月23日	10:40~	女子1回戦 岐阜商業対アレセア湘南	武蔵野の森総合スポーツプラザ
実技	割り当て	岐阜商業(岐阜県)対アレセア湘南(神奈川県)	主・副(U1) 相手 CC:河野(A級山梨), U2:井澤(B級)

○ゲーム前(プレカンファレンス)

- ・3POメカニクスの確認(ローテーションのタイミング、ショットクロックの管理、オールコートプレスをしてきた時の対応、OOBの協力などについて)
- ・ガイドラインの確認

○ゲームの実際

ゲーム開始はお互い競る様子であったが、アレセア湘南のシュートが入りだし3Qで点差が開いてから一方的な展開になり、アレセア湘南が勝利した。

アレセア湘南のキープレイヤーのマッチアップに関して、試合の初めで整理をすることができなかった。後半になると同じような接触はなかったため前半での判定が必要であった。オールコートプレスDefを仕掛けてきた時、PGCで確認をしたことができ、スムーズに対応できた場面もあった。ローテーションに関しては、もっと積極的に動いた方が見やすかったのではないかという場面があり、本来鳴らすべき人あ誰だったのかという場面があった。1試合を通して、アイコンタクトやコミュニケーションをとることができ、3人で協力して試合を進めることができた。

○ゲーム後(ポストカンファレンス) 主任 須黒 祥子 氏(東京都) S級

反省に出たように、アレセア湘南のキープレイヤーのマッチアップに対し、早い段階で整理が必要だった。試合開始2ターン目ぐらいで起こったため、テンポセッティングには重要であった。判定できなかった原因として、3人とも気にしている様子であったが誰が吹くべきなのかということにすぎず結局判定されなかったのではないだろうか。目を当てているのであれば、判定してほしかった。もっとショットクロックの意識を持つことが必要である。例えば、カットボールがあったがコントロールはなかった時の秒数に対して、クルー全員が確認した方が良かった。全員が共通理解することでスムーズに進めることができる。ゲームの様相が変わった時に、2つのファールを判定したことが、ゲームがバタバタしそうになったのを落ち着かせることができた。このようにこれからも淡々と起こったことを判定してほしい。

全体を通しての感想

初めてのウインターカップは会場も広く独特な雰囲気があった。3POということもあり、緊張はしたがいつも通りに臨むことができた。ゲームを通して課題だと強く感じたことは、判定するためのプレーの理解とメカニクス(プライマリーエリアとアングル)の理解を深めることであった。プレーの理解に関しては、主にポストアップのところどちらが先に仕掛けたのか、どのようなプレーをしてくるのかなど、目の当て方や笛を入れるタイミングが課題である。メカニクスに関しては、これから3POが主流となってくるため、プライマリーエリアとアングルということ意識しながら取り組んでいきたい。今回の経験で感じたことや得たことを県内に持ち帰って、還元していきたい。インターハイや国体が控えているため、もっとレベルアップできるように研鑽していきたいと思っております。

今回の派遣にあたり、お世話になった東京都高体連バスケットボール協会の皆様をはじめJBAより派遣の本部審判員の皆様、そして、派遣にあたりご配慮いただきました原田審判委員長をはじめ鹿児島県審判委員会の皆様にお礼を申し上げます。ありがとうございました。